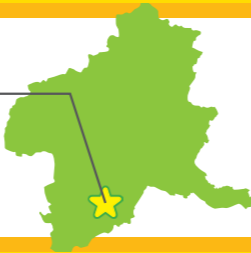


甘楽町の歴史と魅力を伝える語りべとして 甘楽町観光案内の会

甘楽町



城下町小幡の歴史や魅力を伝えるガイドを実施。シニア層のきめ細かい対応で、観光客からも好評。有償とすることで、一人ひとりにプロフェッショナルとしての自覚が芽生えている。



協会の帽子とベストを着けて石垣について説明



歴史的に意義の深い雄川堰（おがわぜき）一番口で

●活動内容

甘楽町には織田家ゆかりの小幡藩の名所・旧跡などが多数残っている。その歴史的な背景や意味を含め、訪れた人々に解説を行っているのが甘楽町観光案内の会だ。

県内で唯一現存する大名庭園の楽山園を中心に、武家屋敷や石垣などについて解説。日本名水100選に選ばれた雄川堰（おがわぜき）や織田宗家七代の墓も人気の名所だ。2～3時間の案内がおすすめのこと。

4月のさくらまつりには武者行列が行われ、観光客が大勢訪れるため、観光案内の会が総出で案内に当たる。ガイド時に着用する織田家の家紋が背中に入った黄色のベストが目印になっている。

ガイドは有料で、2時間以内2,000円。超過1時間につき1,000円の設定で、料金の8割がガイド本人に、2割は会の収入となる。年間の依頼数は平均140回ほどで、1人あたり約10回のガイドを行っている。

ガイドの依頼は、事務局で一週間前まで受け付けている。

●事業を始めたきっかけ

「甘楽町に歴史的な名所が残っていることは、歴史愛好家には知られていましたが、一般の方にはあまり知られていませんでした。甘楽町を訪れてくださった方に、地元の我々が、その歴史や魅力を直接お伝えできないものか、ということからこの会がはじまりました」と、現会長を務める柳澤清次さん（68）。

もともとは「甘楽町案内指導者の会」として、昭和60年に発足。その後、親しみやすくわかりやすい名称にするため、現在の名前に変えた。

この会に入ったきっかけについて、柳澤さんは「この町の生まれなので、町の歴史や自分の祖先について興味を持ちました。城下町小幡の魅力を大勢の人に知ってもらうため、また、少しでも町の役に立てればと思い、観光案内を始めました」と語る。

現在ガイドに携わるメンバーは、やはり地元の歴史に関心を持つ、甘楽町在住の人がほとんどだ。募集は町の広報で行っている。平日の活動もあるため、時間にゆとりのあるシニア層が活躍している。ガイドを募るにあたっては、募集の時期を工夫するなどしており、平成26年6月の募集で、新たに3名が加わった。



楽山園には多くの観光客が訪れる



観光を学ぶ大学生と一緒にワークショップ

●工夫している点・特長

平日はシニア世代のバスツアーが多いことから同世代ならではの会話が弾み、また、小さな子どもにも孫の相手をするように接するなど、豊富な人生の経験値を活かして、幅広い世代へ柔軟に対応している。

年齢を経て現役ガイドが難しくなるメンバーもいるが、会合に参加してかつての町の様子を話すなど、先輩として頼られている。

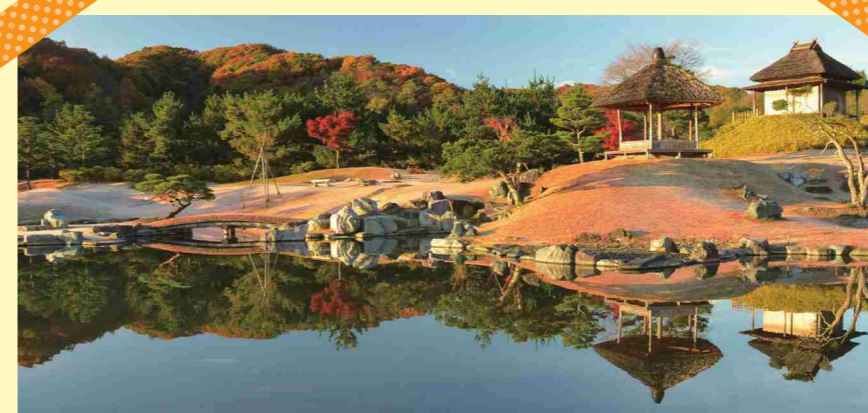
ガイドを務めるには、歴史について勉強をする必要がある。町で作ったマニュアルなどで学び、先輩のガイドに何度か同行したのち、自主研究を重ねてからガイ

ドとしてデビューとなる。

さらに、ガイドのメンバーが独自に調べた情報を共有するなどして常に知識に磨きをかけている。わからない点などは、ガイド仲間同士、電話で情報交換をする。仲間がいることが、大変心強い。

また、大学で観光を学ぶ学生にガイドを行い、若い世代の意見を聞くといったワークショップを開催し、ガイド技術の向上に努めている。

ガイド料を有料にすることで、プロのガイドとしての責任感が増すとのことだ。



〈やりがい・楽しみ〉

「甘楽町の良さを伝えたい、感動を味わってもらいたいと思い、ガイドをしています。心地良い風の吹く場所で、その場の風情と一緒に味わってもらえるとうれしいですね。案内の技術云々よりも大事なものは気持ちで、それはきっと相手に伝わ

るという信念を持っています。お客さまに『わかりやすく、丁寧な説明をありがとうございました』と言われていたり、お礼の手紙をいただくと、とてもうれしく励みになります」（柳澤清次さん）

基礎データ

☎0274-74-3131
甘楽町振興課商工観光係
事業開始時期/
昭和60年
主な活動/
町内の歴史的な名所の案内
人数・年齢/
17名 平均60代後半
実施主体/
甘楽町観光協会の会

